

Profile  
山形銀行人事総務部  
ワークライフバランス推進室  
安達 愛さん

昨年結婚したばかりという安達さん。「これから結婚を考える同僚・後輩のために職場環境を整えていきたいです」



### 山形銀行の子育て支援にみる

## 男性も女性も育児休業を 取得しやすい職場とは？

企業が従業員の子育て支援のために設けている「育児休業（育児）制度」しかし「育児を取る」と、同僚に負担をかける」と、制度があっても利用できない環境があります。こうした状況で、山形銀行は子育て支援に積極的に取り組み、今年4月に全国で初めて「プラチナくるみん」の認定を受けました。なぜ山形銀行は育児の取得率を上げることができたのでしょうか。山形銀行人事総務部ワークライフバランス推進室の安達愛さんにお話を伺いました。



### プラチナくるみん

子育て支援に取り組む最高ランクの企業を国が認定する制度。山形銀行は、平成26年度の育児取得率が、女性約100%、男性（短期）約54%を達成するなどの成果が認められ、認定を受けた。



### 「結婚退職」が 当たり前の時代

平成17年4月、「次世代育成支援対策推進法」が施行され、企業に対し、子育て中の従業員を支援していくための行動計画の策定が求められました。

当時、女性行員は結婚を機に退職してしまう人が多く、育児を取得した女性はわずか4人だけ、男性はゼロでした。

また、当行では、今後の労働人口

減少による人材不足を課題として捉え、その解決には、非正規の女性スタッフを含め行員の半数以上を占める女性の活躍推進が必要と考えました。このような経緯から、女性行員の声を取り入れた行動計画を策定し、「女性行員が結婚・出産後も働き続け、活躍できる環境づくり」に取り組みました。

### 女性の育児取得率 ほぼ100%を達成！

計画作成当初は、女性行員の中にも、育児により職場を1年も離れることに対する気兼ねがありました。

そこで、組織として、出産を控えた女性行員へ育児の取得を呼びかけたのです。するとわずか3年後には女性の育児取得率はほぼ100%になりました。それは現在もキープし続けています。

今では育児を取得することが当たり前

### 「短期育児休業制度」 を導入するも…

女性行員の育児取得率はほぼ100%になりましたが、男性行員は相変わらず低いままでした。男性行員の育児参画の促進と子育て

中の女性行員への理解を深めるために、「男性にも育児を知ってもらいたい」、それには「男性も育児取得を！」ということになりました。

そこで平成21年から、連続する5営業日（土日含め最大9日間）であれば有給で休みを取得できる「短期育児休業制度」を導入しました。ところがその後利用者も1年に1〜2人程度、取得率は伸びませんでした。

### 管理職の意識改革が 功を奏す

男性行員は女性行員以上に「育児

を取得したい」と言い出しにくい状況にありました。そこで、まずは管理職の意識改革に取り組みました。当行の頭取自身、仕事と家庭の両立支援に対する理解・関心が大変高かったため、先導的な役割を担い、様々な場面で「行員が一生働き続けたいと思える子育て支援ナンバー1企業を目指す」と呼びかけました。また、管理職を対象にした研修会を実施し、ワークライフバランス（仕事と家庭の両立）を進め、子育てに対する理解を深めていきました。

その結果、上司が積極的に育児を勧めるケースが多くなりました。そして昨年度は課長クラスを

含む23人の男性行員が短期育児休業制度を利用、取得率は54%になったのです。

### 育児が企業に もたらす メリットは？

育児復帰後の行員は、仕事への意欲が高いことも事実です。「休みをいただいた分、恩返しをしなければ」という気持ちがあるのでしよう。

復帰後に、管理職へ挑戦する女性行員も出てきました。今後、支店長を目指す職員も確実に育つてい

（編集協力員 渡邊 園美）

## 山形銀行で 育休を利用した行員に 感想を伺いました。



五十嵐 佑太さん  
(金融市場部)

今年5月に2番目の子どもが生まれ、5日間（土日を含め合計9日間）の短期育児休業を利用しました。

### Q 育休に入る前に不安はなかった？

上司に理解があり、仕事も同僚に引き継いでもらったので不安はありませんでした。同僚から「なかなか取る機会はないから」と気持ちよく背中を押してもらえたので、安心して休めました。

### Q 取得した感想は？

子どもをお風呂に入れるなど触れ合う時間ができてよかったです。一人目の子どもが生まれた時は、子どもの顔を見る暇がないくらい忙しくて、妻に任せっきりでしたから…。

### Q 育休後に心境の変化はあった？

「妻の負担がものすごく大きい」ことが自分でやってみてわかりました。以前は残業で子どもが寝てから帰ることが多かったのですが、なるべく早く帰るよう心がけています。



押野 美穂さん  
(事務統括部)

2人目の子どもを出産後、育休を1年間取得しました。現在は子どもを保育園に預けて、フルタイムで働いています。

### Q 育休に入る前に不安はなかった？

周りの人に「申し訳ない」という気持ちは多少ありましたが、育休を取ることは普通になっていたのので、特に不安はありませんでした。私が入行した頃は、女性行員は結婚を期に辞めてしまっていたので、この10年でずいぶん育休への見方が変わったと思います。

### Q 復帰後、仕事と家庭の両立に問題はなかった？

育休前と部署、仕事内容共に変わりなく、スムーズに復帰できました。子どもがまだ小さいので、仕事を休まなくてはならないことがあります。同僚が「帰らなきゃいけない時は帰ってね」と配慮してくれるので助かっています。